

郡	人口	乳児死亡数	乳児死亡率
豊多摩郡	27,600	1,100	3.98
北豊島郡	21,000	810	3.86
南足立郡	60,100	1,800	2.99
南葛飾郡	140,000	4,200	3.00
計	1,120,000	34,000	3.04

多摩三郡 ニ於ケル二ヶ年ノ平均人口ハ二七六、六七三人ニシテ、乳児死亡数ハ一、六六九人ナリ、人口千ニ對スル乳児死亡率ハ六・〇三ヲ示セリ、之ヲ各郡別ニ見ルニ、北多摩郡ハ六・一九、西多摩郡ハ六・〇七ニシテ二郡共ニ三郡平均ヨリ高率ナリ、最モ低率ナルハ南多摩郡ノ五・七七ニシテ三郡平均率ヨリ低下ヲ示セリ。

後期ノ調査成績ト比較スルニ、後期ハ前期ニ比シテ各郡共ニ死亡率低下ヲ示セリ、即チ後期ニ於ケル最高位ハ前期ニ於ケル最低位ヨリモ其率低キヲ見ルベシ、尙後期第一位ニアルハ南多摩郡ニシテ、三郡平均率ヨリ超過セルヲ相違セル點ナリトス。

郡	人口	乳児死亡数	乳児死亡率
西多摩郡	67,500	2,000	2.98
南多摩郡	60,100	1,800	2.99
北多摩郡	100,000	3,000	3.00
計	227,600	6,800	2.99

出生ヨリ見タル死亡ノ分布

東京府 ニ於ケル二ヶ年ノ平均出生数ハ一〇七、三九八人ニシテ、人口千ニ對スル出生率ハ三〇・六一ヲ示セリ、之ヲ地域別ニ見ルニ、最高位ニアルハ多摩三郡ノ四一・一六ニシテ、之ニ次グハ島嶼ノ三四・九九ナリトス、他ノ三地域ハ何レモ府

平均率ヨリ低シ、即チ東京市二九・七一、隣接五郡二九・五五ヲ示シ、八王子市ハ二九・四四ニシテ最モ低率ナリ。
後期ノ調査ニヨル出生率ト比較スルニ、隣接五郡ノミハ僅少ナガラ増率ヲ示セルモ、他ノ四地域並東京府平均共ニ前期ノ調査成績ヨリ低下ヲ示セリ。
出生百ニ對スル乳児死亡率ハ東京府平均一七・三一ヲ示セ

リ、之ヲ地域別ニ見ルニ、八王子市ハ二〇・六五、隣接五郡ハ一九・五八ニシテ共ニ府平均率ヨリ高ク、東京市ハ一六・七〇、多摩三郡ハ一四・六六、島嶼ハ七・八四ヲ示シ、何レモ府平均ヨリ低率ナリ、而シテ最高位ノ八王子市ト最低位ノ島嶼トハ

約三倍ニ近キ差アルヲ見ル。
前期ノ成績ヲ後期ノ調査ト比較スルニ、島嶼ニ於テハ死亡率ノ増加セルモ、他ノ四地域並東京府平均共ニ前期ヨリハ其率ノ減少ヲ示セリ。

地域別	自大正八年二ヶ年平均			自大正十三年三ヶ年平均		
	出生数	對人口千	乳児死亡率	出生数	對人口千	乳児死亡率
東京市	57,700	2,970	5.13	50,000	2,700	5.40
隣接五郡	3,600	1,950	5.44	3,800	2,000	5.26
多摩三郡	22,600	4,200	18.58	22,000	4,000	18.18
八王子市	11,000	5,900	53.64	11,000	5,800	52.73
島嶼	1,700	890	52.35	1,700	880	51.76
計	100,000	50,000	50.00	100,000	50,000	50.00

東京市 ニ於ケル二ヶ年ノ平均出生数ハ六〇、七七五人ニシテ、人口千ニ對スル出生率ハ二九・七一ナリトス、之ヲ各區別ニ見ルニ、芝、麻布、牛込、深川、京橋、本郷ノ六區ハ、何レモ市平均ヨリモ出生率高ク、就中芝區ハ四四・六八ニシテ嶄然一頭地ヲ拔ケリ、他ノ九區ハ其率低クシテ市平均ヨリ低下セリ、九區ノ中麴町區ハ二一・九三ニシテ最モ低位ニアリ、而シテ最モ高位ニアル芝區ハ最低位ナル麴町區ニ比シテ、實ニ二倍強ノ高率ヲ示セリ、更ニ地區別ニ見ルニ、混合地區ノ三區平均率ハ三二・二三ニシテ、市平均率ヨリ高キモ、工業地ノ二區平均率ハ二九・四二、住宅地區ノ七區平均率ハ二九・三〇、商業地區ノ三區平均率ハ二六・九二ヲ示シ、何レモ市平均ヨリ低率ナリトス。

後期ニ於ケル調査成績ヲ見ルニ、前期ニ比シテ後期ニ出生率ノ増加セルハ、小石川、京橋、淺草ノ三區ノミナリ、而シテ東京市平均並各區ニ於ケル出生率ノ最高最低共ニ率ノ低下セルヲ見ル、即チ最モ高位ニアル芝區ハ三五・九五ニシテ、最モ低位ナル日本橋區ハ二一・一一ヲ示シ、最高最低ノ差ハ一倍半強ニ相當セリ、更ニ地區別ニ見ルニ、混合、住宅ノ二地區ハ市平均ヨリ高ク、商業、工業ノ二地區ニアリテハ市平均ヨリ低率ヲ示セリ、即チ住宅地區ニ於ケル出生率ノ市平均ヨリ増加セルヲ相違セル點ナリトスルモ、概シテ後期ハ前期ニ比シテ出生率ノ低減セルヲ見ルベシ。
出生百ニ對スル乳児死亡率ハ、東京市平均一六・七〇ナリトス、之ヲ各區別ニ見ルニ、市平均率ヨリ高キハ、本所、淺

草、深川、下谷、神田、小石川ノ六區ニシテ、就中本所區ハ二
三・一〇ヲ示シ最高位ニアリ、他ノ九區ハ何レモ市平均ヨリ
低率ニシテ、芝區ハ九・二〇ヲ示シ最低位ニアリ、而シテ最高
位ノ本所區ハ最低位ナル芝區ノ二倍半強ノ高率ナルヲ見ル、
更ニ地區別ニ見ルニ、住宅地區ノ七區平均率ハ一四・四二、
商業地區ノ三區平均率ハ一五・〇一、混合地區ノ三區平均率
ハ一六・二〇ニシテ三地區共ニ市平均ヨリ低率ナリ、工業地
ノ二區平均ハ二二・四八ヲ示シ市平均ヨリ高率ナルヲ見ルベ
シ。

後期ノ調査成績ト比較スルニ、前期ニ比シテ出生ニ對ス
ル乳兒死亡率ヲ増加セルハ、日本橋、芝ノ二區ニシテ、他ノ
十三區ハ何レモ其率ノ低下ヲ示セリ、而シテ東京市平均率ヲ
超過セル區並順位亦概ネ前期ニ同ジク、本所區一九・二三ニ
シテ高位ヲ占メ、芝區九・九一ニシテ低位ニアリ、コノ最高最
低ハ約二倍ノ差アルヲ見ル、更ニ地區別ニ見ルニ住宅、商業
二地區ノ市平均率ヨリ低キハ前期ニ同ジキモ、工業地區ト共
ニ混合地區ノ市平均率ヨリ超過セルハ前期ト異ル點ナリト
ス。

地區區別	自大正八年二ヶ年平均			自大正十三年三ヶ年平均		
	出生數	對人口千 出生率	對出生百 乳兒死亡率	出生數	對人口千 出生率	對出生百 乳兒死亡率
住宅地區						
總町區	1,268	3.25	1.27	1,177	3.25	1.04
麻布區	1,908	3.75	1.14	1,717	3.66	1.16
赤坂區	1,800	3.50	1.26	1,585	3.01	1.00
四谷區	1,050	2.63	1.56	1,066	2.80	1.45
牛込區	1,775	3.70	1.15	1,745	3.63	1.13
小石川區	1,961	4.06	1.10	1,935	4.06	1.08
本郷區	1,766	3.66	1.43	1,635	3.56	1.19
計平均	1,621	3.26	1.32	1,538	3.15	1.26
商業地區						
神田區	1,455	3.00	1.90	1,285	2.80	1.33
日本橋區	1,145	2.33	1.08	1,141	2.33	1.07
京橋區	1,068	2.21	1.47	1,071	2.21	1.07
計平均	1,224	2.51	1.48	1,167	2.44	1.14
工業地區						
本所區	1,000	2.00	1.20	995	1.99	1.20
深川區	1,336	2.76	1.25	1,319	2.74	1.25
計平均	1,168	2.38	1.23	1,157	2.37	1.23
混合地區						
芝區	1,255	2.51	1.95	1,255	2.51	1.95
下谷區	1,556	3.11	1.50	1,556	3.11	1.50
計平均	1,405	2.81	1.73	1,405	2.81	1.73

隣接五郡	自大正八年二ヶ年平均			自大正十三年三ヶ年平均		
	出生數	對人口千 出生率	對出生百 乳兒死亡率	出生數	對人口千 出生率	對出生百 乳兒死亡率
淺草區	1,211	3.26	1.28	1,133	3.01	1.26
計平均	1,201	3.13	1.20	1,144	2.99	1.23
工業地區						
本所區	1,000	2.00	1.20	995	1.99	1.20
深川區	1,336	2.76	1.25	1,319	2.74	1.25
計平均	1,168	2.38	1.23	1,157	2.37	1.23
合計平均	1,201	2.81	1.23	1,157	2.69	1.23

隣接五郡ニ於ケル二ヶ年ノ平均出生數ハ三二、九四八人
ニシテ、人口千ニ對スル出生率ハ二九・五五ナリトス、各郡別
ニ見ルニ南足立郡三六・二〇、南葛飾郡三三・二一、荏原郡三
〇・一七ニシテ何レモ五郡平均率ヲ超過セリ、豊多摩郡二七・
九五、北豊島郡二七・二二ニシテ共ニ五郡平均ヨリ低率ナリ。
後期ノ調査成績ト比較スルニ、五郡平均率ハ三一・四六ニシ
テ前期ニ比シテ増率セルヲ見ル、之ヲ郡別ニ見ルニ、荏原、
豊多摩ノ二郡ハ五郡平均ヨリ低率ニシテ、他ノ三郡ハ其率高
シ、然レドモ各郡別ニ比較スレバ、荏原、豊多摩、北豊島ノ
三郡ハ後期ニ於テ出生率ヲ増加セルモ、南足立、南葛飾ノ二
郡ニアリテハ出生率ノ減退セルヲ認め得ベシ。

出生百ニ對スル乳兒死亡率ハ五郡平均一九・五八ナリ、之
ヲ郡別ニ見ルニ、北豊島郡二二・〇一、南葛飾郡二一・八五ニ
シテ、共ニ五郡平均ヨリ高ク、南足立郡一八・八二、荏原郡一
八・七四、豊多摩郡一五・五八ニシテ何レモ五郡平均ヨリ低率
ナリトス。
後期ニ於ケル調査成績ト比較スルニ、各郡並五郡平均率共
ニ前期ヨリモ低下ヲ示セリ、而シテ南足立、荏原、豊多摩ノ
三郡ハ其率低クシテ、前期ノ調査ト同一ノ地位ニアルモ、北
豊島、南葛飾ノ二郡ハ五郡平均ヨリ高率ニシテ、且高低ノ地
位逆轉セルヲ見ルベシ。

郡別	自大正八年二ヶ年平均			自大正十三年三ヶ年平均		
	出生數	對人口千 出生率	對出生百 乳兒死亡率	出生數	對人口千 出生率	對出生百 乳兒死亡率
荏原郡	1,617	3.07	1.27	1,570	3.07	1.27
豊多摩郡	1,257	2.66	1.26	1,213	2.67	1.26
北豊島郡	1,000	2.00	1.20	1,010	2.02	1.20
南足立郡	1,275	2.55	1.83	1,255	2.51	1.83

南 葛 飾 郡	六四七	三・三	三八五	二・四三	三・五	一九五
計	三、四六	三・五五	一九六	三・八〇	三・四	一九五

多摩三郡 本地域ニ於ケル出生率ハ甚ダ高率ニシテ、五地域中特殊ノ地位ヲ示セリ、即チ人口ニ對スル乳兒死亡率ハ高クシテ第二位ニアルモ、出生ニ對スル乳兒死亡ハ低率ニシテ第四位ニアルヲ見ルベシ。

本地域ニ於ケル二ケ年ノ平均出生數ハ一一・三八八人ニシテ、人口千ニ對スル出生率ハ四一・一六ナリトス、之ヲ郡別ニ見ルニ、北多摩郡ハ四一・六六、西多摩郡ハ四一・三二ニシテ共ニ三郡平均ヨリ高ク、南多摩郡ハ四〇・三〇ニシテ三郡平均ヨリ低キモ、東京府平均率三〇・六一ニ比シテハ遙ニ高率ナリトス。

後期ノ調査成績モ前期ノ成績ト同ジク、五地域中出生率ノ

郡 別	自大正八年二ケ年平均			自大正十三年三ケ年平均		
	出生數	對人口千出生率	對出生百乳兒死亡率	出生數	對人口千出生率	對出生百乳兒死亡率
西多摩郡	四、〇〇	四・三三	四・〇	四、八九	四・三三	二・五
南多摩郡	三、三三	四〇・〇	二・三	三、三六	三六・五	二・九
北多摩郡	四、五五	四・六六	二・六	五、四九	四〇・四	二・五
計	二、二八	四・二六	四・六	三、三六	四〇・三	二・九

月齡並日齡ヨリ見タル死亡

乳兒死亡ヲ月齡ニヨリ五階級ニ分チテ觀察スルニ別表ノ如

シ、即チ生後「一ヶ月」以内ノ死亡ハ總數ノ三・六九割ヲ占ムル多數ナリトス、「二ヶ月」以内ノ死亡ハ一・二九割ニシテ、「一ヶ月」以内死亡ノ約三分ノ一ニ相當セリ、「三ヶ月」以内ノ死亡ハ〇・八五割ニ減少シ、「四ヶ月」六ヶ月」ノ三ヶ月間

ニ於ケル死亡ハ一・五五割ナリ、更ニ「七ヶ月」十二ヶ月」ノ六ヶ月間ニ於ケル死亡ハ二・六二割ヲ示セルニ過ギザル少數ナリ。

後期ノ調査成績ト比較スルニ、「一ヶ月」以内死亡ヨリ「四ヶ月」六ヶ月」以内死亡ニ至ル四階級ニアリテハ、前期ニ比シテ僅少ナガラ後期ニ於ケル割合高キモ、「七ヶ月」十二ヶ月」階級ノ死亡ハ後期ニ比シテ前期ノ割合高キヲ見ルベシ。

「一ヶ月」以内ノ死亡ヲ日齡ニヨリ、更ニ四階級ニ分チテ觀察スルニ、生後「五日」以内ノ死亡最モ多數ニシテ、「一ヶ月」以内死亡ノ三・八二割ヲ占メ、乳兒死亡ノ一・四一割ニ相當シ、「二ヶ月」以内死亡ヲ優ニ凌駕セルヲ見ルベシ、「六日」十一日」以内ノ死亡亦其數多ク、「一ヶ月」以内死亡ノ二・三七

割ニシテ、乳兒死亡ノ〇・八八割ヲ占メ、「三ヶ月」以内死亡ヨリモ多數ナリ、「十一日」十五日」以内ノ死亡ハ、「一ヶ月」以内死亡ノ一・五一割ニシテ、乳兒死亡ノ〇・五六割ニ當レリ、「十六日」一ヶ月」以内ノ死亡ハ、「一ヶ月」以内死亡ノ二・二九割、乳兒死亡ノ〇・八五割ニシテ、「三ヶ月」以内死亡ト殆ド同率ナリトス。

前期ノ成績ヲ後期ノ成績ト比較スルニ、生後「五日」以内死亡並「十六日」一ヶ月」以内死亡ノ二階級ニアリテハ、前期ニ於テハ後期ニ比シテ死亡割合少キモ、「六日」十日」以内死亡並「十一日」十五日」以内死亡ノ二階級ニアリテハ後期ニ比シテ前期ニ於ケル死亡割合高キヲ見ル。

日齡及月齡	自大正八年二ケ年平均		自大正十三年三ケ年平均	
	死亡實數	對一ヶ月以内死亡千分率	死亡實數	對一ヶ月以内死亡千分率
五日以内	三、三三	六三・三	四、〇七	四七・五
六日—十日	一、三九	三三・三	一、三六	三二・四
十一日—十五日	一、〇七	二二・七	一、〇〇	二二・四
十六日—一ヶ月	一、三九	三三・三	一、三六	三二・四
日 不 詳	七	一・〇	一	一・〇
一ヶ月以内計	六、八六	一〇〇・〇〇	七、三三	一〇〇・〇〇
二 ヶ 月	二、三三	—	二、三六	—
三 ヶ 月	一、三九	—	一、三六	—
四ヶ月—六ヶ月	二、八八	—	二、三六	—
七ヶ月—十二ヶ月	四、八七	—	四、八六	—
計	一八、九七	—	一八、九七	—

季節別ヨリ見タル死亡

乳兒死亡ノ季節別觀察ニ當リテ特記スベキハ、總說ニ述ベタルガ如ク、大正八年末ヨリ大正九年ニ亘リテ、全國的ニ大流行ヲ來タシタル流行性感胃ノ影響ナリトス、從ツテ斯カル變態時ニ於ケル季節別ノ觀察ヲ以テ常態時ノ其ト比較スルノ當ラザルハ勿論ナルモ、茲ニ當時ノ狀況ヲ記シテ參考ニ資セントス。

二ヶ年平均ノ各季節ニ於ケル乳兒ノ死亡割合ヲ見ルニ、最高キハ冬季ニ於ケル三・六六割ナリトス、冬季ノ各月ニ於ケル狀況ヲ見ルニ、一月ヲ最高トシテ其ノ前後ノ各月ハ率ノ低下ヲ示セルモ、尙各月ヲ通ジテ一・〇割以上ノ高率ニアラズ見ルベシ、春季ハ二・二八割ニシテ第三位ニアリ、春季各月ノ狀況ヲ見ルニ、一・〇割以上ノ高率ニアリシ二月ヨリ順ニ低下シテ、三月〇・八七割ヲ示セリ、四月ハ更ニ〇・七〇割ニ低下セルモ、五月ニ至リテ〇・七一割ニ上昇セルヲ見ル、夏季ハ二・三六割ニシテ第二位ニアリ、夏季三ヶ月ノ中ニテハ七月ノ〇・八八割ヲ高位トシテ、其前後ノ二ヶ月ハ低ク、何レモ〇・七四割強ヲ示セリ、秋季ハ四季中ノ最低率ナル季節ニシテ一・七〇割ヲ示セルニ過ギズ、之ヲ月別ニ見ルニ、九月ハ〇・五六割ニシテ前月ヨリ低下シ、十月ハ更ニ下降シテ僅ニ〇・五割ヲ示シ、十二月ヲ通ジテノ最低率ナル月ナリトス、而シテ十一月ニ至リテハ〇・六五割ノ上昇ヲ示セリ、即チ上記十二ヶ月ヲ通覽スルニ、最高一月、最低十月ノ間ニ於テ、四月ヲ底トシ、七月ヲ頂トスル小ナル起伏ヲ描ケリ、而シテ最高一月

ハ最低十月ノ約三倍弱ニ相當スルノ高率ナルヲ見ルベシ。後期ニ於ケル調査成績ト比較スルニ、冬季ハ最も高率ニシテ、秋季最も低率ナルハ前後期共ニ同一ナルモ、前期ニ於ケル春夏ノ順位ハ、後期ニアリテハ夏春ノ順位ニ轉セルヲ見ル、而シテ後期ニ於ケル各月ノ狀況ハ、一月ヲ最高率トシテ以降ノ各月ハ率ノ遞減ヲ示シ、九月ヲ最低率トシテ、十月ヨリ漸次率ノ上昇ヲ示セル曲線ヲ描ケルヲ見ル。

季節	乳兒死亡數			對合計千分率		
	三	四	五	三	四	五
春	1,203	1,301	1,331	0.67	0.70	0.71
夏	1,677	1,677	1,677	0.91	0.91	0.91
秋	1,001	1,001	1,001	0.55	0.55	0.55
冬	1,855	1,855	1,855	1.00	1.00	1.00
合計	1,855	1,855	1,855	1.00	1.00	1.00

病類別ヨリ見タル死亡

大正十三年三月内閣訓令ヲ以テ病類統計ノ改正アリ、爾來本廳ニ於ケル調査亦コレニ準據セリ、因リテ茲ニ乳兒死亡ノ病類觀察ニ當リテ、前期調査ノ病類中ヨリ左記ノ十四類ヲ抽出シ以テ、後期ノ調査成績ト比較對照ノ便ニ努メタリ。

乳兒ノ死亡病類中最モ多數ナルハ、畸形先天性弱質乳兒ニ固有ノ疾患ニ・五八割ニシテ第一位ニアリ、第二位ハ胃腸疾患ニシテ合計二・〇五割、第三位ハ加答兒性肺炎ノ一・六八割ニシテ、以上三病類ヲ合シテ六・三三割ヲ算シ、實ニ乳兒死亡ノ過半數ヲ占ムルヲ見ル、以下多數ナルモノヨリ順記スレバ、第四位急性氣管支炎〇・七三割、第五位腦膜炎〇・五一割、第六位脚氣〇・三八割、第七位流行性感胃〇・三一割、第八位榮養不良〇・二九割、第九位百日咳〇・二〇割、第十位微毒〇・一九割、第十一位麻疹〇・一五割、第十二位腎臟炎〇・一〇割、第十三位結核性疾患〇・〇九割、第十四位急性法定傳染病〇・〇五割等ナリトス。

以上ノ成績ヲ後期ノ調査成績ト比較スルニ、前期調査ニ比シ後期ニ於テ率ノ増加ヲ示セルハ、畸形先天性弱質乳兒ニ固有ノ疾患、脚氣、急性法定傳染病、麻疹、百日咳ノ六病類ニシテ、率ノ減少ヲ示セルハ、加答兒性肺炎、急性氣管支炎、腦膜炎、流行性感胃、榮養不良ノ五病類ナリ、就中流行性感胃ニアリテ著シキ差ヲ見ルハ、前記ノ如ク大流行ノ影響ニ因スルモノナリ、而シテ胃腸疾患、結核性疾患、微毒、腎臟炎ノ四病類ハ前後期共ニ其率殆ト相同ジキヲ見ルベシ。

病類別	死亡數		對合計千分率	
	至大正八年	至大正九年	至大正十三年	至大正十五年
流行性感胃	56	56	0.30	0.30
麻疹	26	26	0.14	0.14
百日咳	26	26	0.14	0.14
急性法定傳染病	15	15	0.08	0.08
結核性疾患	15	15	0.08	0.08
腦膜炎	15	15	0.08	0.08
急性氣管支炎	15	15	0.08	0.08
加答兒性肺炎	15	15	0.08	0.08
胃腸疾患合計	15	15	0.08	0.08
榮養不良	15	15	0.08	0.08
畸形先天性弱質乳兒固有ノ疾患	15	15	0.08	0.08
脚氣	15	15	0.08	0.08
腎臟炎	15	15	0.08	0.08

幼 兒 篇

實數ヨリ見たル死亡ノ分布

東京府ニ於ケル大正八、九年ノ二ヶ年平均ノ幼児死亡數ハ一〇・九九四人ナリ、之ヲ各地域別ニ見ルニ、東京市ハ五・五八割ノ多數ニシテ第一位ニアリ、第二位ハ隣接五郡ノ三・三〇割ニシテ、コノ二地域合計ハ八・八八割、東京府ニ於ケル幼児死亡ノ大部分ヲ占ムルヲ見ル、多摩三郡ハ〇・九九割、八王子市ハ〇・二〇割、島嶼〇・〇四割ノ順位ヲ示セリ。

後期ニ於ケル調査成績ト比較スルニ、後期ノ第一位ハ隣接五郡ニシテ、東京市ハ第二位ニ下リ、前期ノ成績ト兩地域其地位ヲ轉ゼリ、他ノ三地域ハ其ノ順位ニ變化ナキモ、多摩三郡ハ前期ヨリ其率ヲ減ジ、八王子市、島嶼ノ二地域ハ前期ニ比シ、後期ハ率ノ増加ヲ示セリ。

地域別	自大正八年二ヶ年平均 至大正九年		自大正十三年三ヶ年平均 至大正十五年	
	幼児死亡數	對合計千分率	幼児死亡數	對合計千分率
東京市	六二五	五・五八	四一三	四・五八
隣接五郡	三六八	三・三〇	四八五	四・九三
多摩三郡	一〇四	〇・九六	八六	〇・九三
八王子市	一〇	〇・一〇	一〇	〇・一〇
島嶼	四	〇・〇四	四	〇・〇四
合計	一〇七五	一〇・九九	九六〇	一〇・〇〇

東京市ノ各區ニ於ケル死亡分布ノ狀況ヲ見ルニ、本所、淺

草ノ二區ハ共ニ一・三〇割強ノ高率ヲ示セリ、深川區〇・九八割、下谷區〇・八七割、神田區〇・七六割、小石川區〇・七五割、芝區〇・七二割等亦高率ナリ、十五區中最モ低率ナルハ赤坂區ノ〇・二〇割ニシテ、最高ナル本所區ノ六分ノ一ニ達セザルノ少率ナリトス、之ヲ地區別ニ見ルニ、住宅地七區ノ平均ハ〇・四四割、商業地三區ノ平均ハ〇・五八割、混合地ノ三區平均ハ〇・九七割ナリ、而シテ工業地二區ノ平均ハ一・一五割ノ高率ニシテ、最モ低率ナル住宅地區ノ二倍半強ニ相當スルノ高率ナリトス。

後期ノ調査成績ト比較スルニ、後期ニ於テ高率ナルハ淺草、本所ノ二區ニシテ、下谷、芝、本郷、深川、小石川ノ五區亦高率ナリトス、最モ低率ナルハ麴町區ニシテ、最高ナル淺草區ノ六分ノ一ニ及バザル少率ナリ、即チ大體ニ於テハ前後期略々同一ナリ、更ニ地區別ニ見ルニ、後期ニ於ケル率ノ低キモノヨリ順記スレバ、商業、住宅、工業地區ノ順位ニシテ、混合地區ハ最モ高率ナリ、即チ前期ニ比シテ最高最低ノ地區ニ變動アルヲ見ルベシ。

地區別	自大正八年二ヶ年平均 至大正九年		自大正十三年三ヶ年平均 至大正十五年	
	幼児死亡數	對合計千分率	幼児死亡數	對合計千分率
麴町區	一五	一・五〇	八	〇・八〇
麻布區	三三	三・三〇	一〇	一・〇〇
赤坂區	一三	一・三〇	六	〇・六〇
四谷區	一六	一・六〇	三〇	三・〇〇
牛込區	二〇	二・〇〇	三三	三・三〇
小石川區	四〇	四・〇〇	三三	三・三〇
本郷區	四〇	四・〇〇	三三	三・三〇

郡別	自大正八年二ヶ年平均 至大正九年二ヶ年平均		自大正十三年三ヶ年平均 至大正十五年三ヶ年平均	
	幼児死亡数	對人口千分率	幼児死亡数	對人口千分率
計	4,111	101.11	1,051	26.28
商業地區				
神田區	2,177	54.72	533	13.33
日本橋區	2,311	58.03	583	14.58
京橋區	2,622	65.55	677	16.92
計平均	2,363	58.77	598	14.91
混合地區				
芝區	4,000	100.00	1,000	25.00
下谷區	3,673	91.82	926	23.15
淺草區	3,000	75.00	750	18.75
計平均	3,558	88.94	925	23.12
工業地區				
本所區	3,031	75.77	763	19.07
深川區	2,031	50.77	508	12.70
計平均	2,531	63.27	635	15.88
隣接五郡	6,111	152.77	1,511	37.77
北豐島郡	3,300	82.50	825	20.62
多摩郡	2,800	70.00	700	17.50
西多摩郡	2,000	50.00	500	12.50
南多摩郡	1,500	37.50	375	9.37
北多摩郡	1,000	25.00	250	6.25
計平均	2,100	52.50	525	13.18

郡別	自大正八年二ヶ年平均 至大正九年二ヶ年平均		自大正十三年三ヶ年平均 至大正十五年三ヶ年平均	
	幼児死亡数	對人口千分率	幼児死亡数	對人口千分率
計	1,051	26.28	486	12.25
豐多摩郡	2,177	54.72	858	21.45
北豐島郡	2,311	58.03	888	22.25
南足立郡	2,622	65.55	999	25.22
南葛飾郡	2,311	58.03	999	25.22
計平均	2,363	58.77	925	23.12
多摩三郡	3,980	99.50	1,580	39.50
北多摩郡	3,980	99.50	1,580	39.50
南多摩郡	3,980	99.50	1,580	39.50
西多摩郡	3,980	99.50	1,580	39.50
計平均	3,980	99.50	1,580	39.50
後期ニ於ケル調査ノ成績順位モ前期ト同一ナリトス。				

人口ヨリ見タル死亡ノ分布

東京府ニ於ケル二ヶ年平均ノ幼児死亡数ハ一〇・九九四
人ニシテ、平均人口千ニ對スル幼児死亡率ハ三・一三ナリト
ス、之ヲ地域別ニ見ルニ、多摩三郡ハ三・九二、隣接五郡ハ三
・二五ニシテ共ニ府平均率ヨリ高シ、之ニ次グハ東京市三・〇
〇、八王子市二・八五、島嶼一・一六ヲ示シ何レモ府平均ヨリ
低率ナリ、而シテ最高ナル多摩三郡ハ最低ナル島嶼ノ三倍強
ニ相當スル高率ナルヲ見ル。
後期ノ調査成績ト比較スルニ、島嶼ハ前期ニ比シテ僅少ナ
ル率ノ上昇ヲ示セルモ、他ノ四地域並ニ東京府平均率共ニ後

後期ノ調査成績ト比較スルニ、第一位北豐島郡、第五位南
足立郡ノ二地域ハ同一ナルモ、前期ニ於テ第二位ニアリシ豊
多摩郡ハ第四位ニ下リ、第三位ニアリシ荏原郡ハ第二位ニ、
第四位ニアリシ南葛飾郡ハ第三位ノ順位ニ上レルヲ見ルベ
シ。
後期ノ調査成績ト比較スルニ、第一位北豐島郡、第五位南
足立郡ノ二地域ハ同一ナルモ、前期ニ於テ第二位ニアリシ豊
多摩郡ハ第四位ニ下リ、第三位ニアリシ荏原郡ハ第二位ニ、
第四位ニアリシ南葛飾郡ハ第三位ノ順位ニ上レルヲ見ルベ
シ。

郡別	自大正八年二ヶ年平均 至大正九年二ヶ年平均		自大正十三年三ヶ年平均 至大正十五年三ヶ年平均	
	幼児死亡数	對人口千分率	幼児死亡数	對人口千分率
東京市	6,111	152.77	1,511	37.77
隣接五郡	2,363	58.77	598	14.91
多摩三郡	1,000	25.00	250	6.25
八王子市	1,000	25.00	250	6.25
島嶼	1,000	25.00	250	6.25
計	10,484	262.18	2,511	62.78

東京市ニ於ケル二ヶ年平均ノ幼児死亡数ハ六、一三五人
ニシテ、平均人口千ニ對スル幼児死亡率ハ三・〇〇ナリトス、
之ヲ各區別ニ見ルニ市平均ヨリ高率ナルハ、深川、本所、本郷、
神田、淺草、小石川、四谷、下谷ノ八區ニシテ、他ノ七區ハ
市平均率ヨリ低シ、就中日本橋區ハ一・七六ノ低率ニシテ、最
モ高率ナル深川區ノ三・三八ニ比シテ二分ノ一弱ナリトス、更
ニ之ヲ地區別ニ見ルニ、住宅地七區ノ平均率ハ二・九五、商業
地ノ三區平均率ハ二・六六ニシテ共ニ市平均率ヨリ低ク、混合地
ノ三區平均率ハ三・〇一、工業地二區ノ平均率ハ三・三八ニシ
テ市平均ヨリ其率高キヲ見ルベシ。

前期ノ成績ヲ後期ニ於ケル調査成績ト比較スルニ、後期ニ
於ケル東京市平均率ハ二・一一ニシテ、コノ平均率ヨリ高キハ
四谷、本郷、淺草、下谷、芝、神田、深川、本所ノ八區ニシ
テ、他ノ七區ハ市平均ヨリ低率ナリ、而シテ最も高位ニアル

地區	自大正八年二ヶ年平均 至大正九年二ヶ年平均		自大正十三年三ヶ年平均 至大正十五年三ヶ年平均	
	幼児死亡数	對人口千分率	幼児死亡数	對人口千分率
住宅地區				
四谷區	1,171	29.27	300	7.50
牛込區	1,171	29.27	300	7.50
小石川區	1,171	29.27	300	7.50
本郷區	1,171	29.27	300	7.50
計平均	1,171	29.27	300	7.50
商業地區				
神田區	2,177	54.72	533	13.33
日本橋區	2,311	58.03	583	14.58
京橋區	2,622	65.55	677	16.92
計平均	2,363	58.77	598	14.91
混合地區				
芝區	4,000	100.00	1,000	25.00
下谷區	3,673	91.82	926	23.15
淺草區	3,000	75.00	750	18.75
計平均	3,558	88.94	925	23.12
工業地區				
本所區	3,031	75.77	763	19.07
深川區	2,031	50.77	508	12.70
計平均	2,531	63.27	635	15.88

計平均	1,500	1,500	1,500
合併平均	1,500	1,500	1,500

隣接五郡 ニ於ケル二ヶ年平均ノ幼児死亡数ハ三、六二八
人ニシテ、二ヶ年平均人口千ニ對スル幼児死亡率ハ三・二五
ナリトス、之ヲ各郡別ニ見ルニ、南足立郡ハ四・五二ヲ示シ、
五郡中一頭地ヲ拔ケルヲ見ル、第二位ハ南葛飾郡ノ三・五一、
第三位ハ北葛飾郡ノ三・四〇ニシテ、三郡ハ何レモ五郡平
均ヨリ高率ナリ、而シテ荏原郡ハ三・〇三、豊多摩郡ハ二・七
九ヲ示シ五郡平均率ヨリ低キヲ見ルベシ。

後期ニ於ケル調査成績ヲ前期成績ト比較スルニ五郡平均
並各郡別ニ於ケル死亡率ハ、前期ニ比シテ低下セルヲ見ル、
而シテ後期ニ於ケル各郡ノ死亡順位ハ前期ニ於テ第二位ニア
リシ南葛飾郡ハ第一位ニ、第三位ニアリシ北葛飾郡ハ第二位
ニ、第一位ニアリシ南足立郡ハ第三位ニ轉セルモ、荏原、豊
多摩二郡ハ前期ト同一順位ヲ示セリ。

郡名	自大正八年 至大正九年二ヶ年平均		自大正十三年 至大正十五年三ヶ年平均	
	対人口千幼 児死亡率	対人口千幼 児死亡率	対人口千幼 児死亡率	対人口千幼 児死亡率
荏原郡	三・〇三	三・〇三	三・〇三	三・〇三
豊多摩郡	二・七九	二・七九	二・七九	二・七九
北葛飾郡	三・四〇	三・四〇	三・四〇	三・四〇
南足立郡	四・五二	四・五二	四・五二	四・五二
南葛飾郡	三・五一	三・五一	三・五一	三・五一
計	三・二五	三・二五	三・二五	三・二五

多摩三郡 ニ於ケル二ヶ年平均ノ幼児死亡数ハ一、〇八四
人ニシテ、二ヶ年平均人口千ニ對スル幼児死亡率ハ三・九二

ノ死亡ハ後期ニアリテ其割合高キモ、三歳―五歳ノ三階級ニ
於ケル死亡ハ、後期ニ比シテ前期ハ高率ヲ示セリ、而シテ内
容ニアリテハ三歳階級ハ僅少ノ差ナルモ、年齒ノ加ハルト共
ニ其ノ差ノ増加ヲ示セリ。

年齢別	自大正八年 至大正九年二ヶ年平均		自大正十三年 至大正十五年三ヶ年平均	
	対人口千幼 児死亡率	対人口千幼 児死亡率	対人口千幼 児死亡率	対人口千幼 児死亡率
一歳	四・八六	四・八六	四・八六	四・八六
二歳	三・六六	三・六六	三・六六	三・六六
三歳	二・六六	二・六六	二・六六	二・六六
四歳	一・八五	一・八五	一・八五	一・八五
五歳	一・二七	一・二七	一・二七	一・二七
計	三・二五	三・二五	三・二五	三・二五

季節別ヨリ見タル死亡

前期ニ於ケル調査當時、流行性感胃ノ大流行アリシハ既ニ
乳児篇ニ記述セリ、幼児死亡亦コノ影響ノ勢カラザリシハ次
表ニヨリテ瞭ナリトス、二ヶ年平均ノ幼児死亡ヲ季節別ニ見
ルニ、第一位ハ夏季ノ三・三六割、第二位ハ冬季ノ三・一〇割ニ
シテ、夏冬二季ノ死亡割合ハ相近似セリ、第三位ハ春季ノ一・
九六割、第四位ハ秋季ノ一・五九割ナリトス、之ヲ月別ニ見ル
ニ、冬季ニ於ケル一月ハ十二ヶ月ヲ通ジテ最も高率一・四八割
ニシテ、二月ハ一・〇七割ニ低下セリ、春季ハ著シキ低下ニシ
テ三月〇・六七割、四月〇・六〇割、五月〇・六九割ヲ示セリ、夏
季ニ屬スベキ六月ハ〇・八九割ナルモ、七月ハ俄然上昇シテ
一・三〇割ヲ示シ、一月ニ次グノ高率ナリトス、八月ハ尙一・
一八割ノ高率ヲ持續セリ、秋季ハ四季中ノ最も低率ナル季節

ナリトス、之ヲ郡別ニ見ルニ、第一位ハ北多摩郡ノ三・九六、第
二位ハ南多摩郡ノ三・九四ニシテ共ニ三郡平均率ヨリ高シ、第
三位ハ西多摩郡ノ三・八五ニシテ三郡平均ヨリ低率ナルヲ見
ルベシ。

後期ニ於ケル調査ノ成績ハ前期ニ比シテ、三郡平均並各郡
比較共ニ其率ノ低下ヲ示セリ、而シテ南多摩郡ハ前後期共ニ
中位ニアルヲ見ルモ、前期ニ於テ最も低位ニアリシ西多摩郡
ハ第一位ニ、第一位ニアリシ北多摩郡ハ最も低位ニ下リ兩郡
全ク其地位ヲ轉セリ。

郡名	自大正八年 至大正九年二ヶ年平均		自大正十三年 至大正十五年三ヶ年平均	
	対人口千幼 児死亡率	対人口千幼 児死亡率	対人口千幼 児死亡率	対人口千幼 児死亡率
西多摩郡	三・八五	三・八五	三・八五	三・八五
南多摩郡	三・九四	三・九四	三・九四	三・九四
北多摩郡	三・九六	三・九六	三・九六	三・九六
計	三・八五	三・八五	三・八五	三・八五

年齢別ヨリ見タル死亡

幼児死亡ヲ年齢ニヨリテ四階級ニ分チテ觀察スルニ、二歳
階級ノ死亡ハ最も多數ニシテ、幼児死亡ノ四・七一割ヲ算セ
リ、三歳階級ノ死亡ハ前者ノ約半ニシテ二・四三割ヲ示シ、四
歳階級ノ死亡ハ二歳階級死亡ノ三分ノ一弱ニシテ、一・七〇
割、五歳階級ノ死亡ハ三歳階級死亡ノ約半數ニシテ一・一七割
ヲ示セリ、即チ幼児死亡ハ年齢ノ進ムニ從ヒテ、其ノ死亡割
合ノ遞減セルヲ見ルベシ。

前期ニ於ケル幼児死亡割合ヲ後期ト比較スルニ、二歳階級

ナリトス、即チ九月ハ〇・六九割ニシテ前月ノ約半バニ降り、
十月ハ更ニ下降シテ〇・四八割ヲ示シ、十一月ハ尙更ニ〇・四
二割ニ下リ、十二月月ヲ通ジテ最低位ナル月ナリトス、冬季ノ
十二月ハ〇・五六割ニ上リ、一月ニ於テ俄ニ約三倍ノ上昇ヲ見
ル、即チ前記ヲ要約スルニ、一月ト八月ヲ頂點トシ、四月ト
十一月トヲ低點トシテ、二個ノ高低起伏アル曲線ヲ描ケリ。
後期ノ調査成績ト比較スルニ、高位夏季、低位秋季ナルハ
前期ニ同ジキモ、前期ニアリテ第二位冬季第三位春季ノ順位
ハ、後期ニ於テハ第二位春季第三位冬季ト順位ヲ轉ゼリ、後
期ニ於ケル月別ノ曲線ハ最高七月、最低十一月ヲ連續スル一
個ノ起伏ヲ描ケルノミナリ。

季節	自大正八年 至大正九年二ヶ年平均		自大正十三年 至大正十五年三ヶ年平均	
	対人口千幼 児死亡率	対人口千幼 児死亡率	対人口千幼 児死亡率	対人口千幼 児死亡率
春	一・九六	一・九六	一・九六	一・九六
夏	三・三六	三・三六	三・三六	三・三六
秋	一・五九	一・五九	一・五九	一・五九
冬	三・一〇	三・一〇	三・一〇	三・一〇
計	三・二五	三・二五	三・二五	三・二五

十二月	六二	五五	五五
十一月	一六四	四七五	五七九
十月	一七九	一〇三九	七七一
九月	三三〇	二一〇八	三三三
八月	三三六	二一〇八	三三三
七月	一〇三九	七七一	一〇〇〇
六月	一〇三九	七七一	一〇〇〇
五月	一〇三九	七七一	一〇〇〇
四月	一〇三九	七七一	一〇〇〇
三月	一〇三九	七七一	一〇〇〇
二月	一〇三九	七七一	一〇〇〇
一月	一〇三九	七七一	一〇〇〇
合計	一〇三九	七七一	一〇〇〇

病類別ヨリ見タル死亡

幼児死亡ノ多種ナル病類中ヨリ次表ノ如ク十三類ヲ抽出シテ觀察スルニ、多數ナルハ第一位加答兒性肺炎ノ二・三四割、第二位胃腸疾患合計ノ二・一五割、腦膜炎ノ一・一二割ノ三類ニシテ、合計五・六一割ヲ算シ幼児死因ノ過半數ヲ占ムルヲ見ル、以下率ノ多キモノヨリ順記スレバ、第四位急性法定傳染病〇・九割、第五位流行性感胃〇・七〇割、第六位結核性疾患〇・五七割、第七位麻疹〇・四一割、第八位急性氣管支炎〇・三六割、第九位百日咳〇・三〇割、第十位腎臟炎〇・二三割、第十一位榮養不良〇・二〇割、第十二位脚氣〇・一四割、第十三位微毒〇・一〇割等ナリトス、加答兒性肺炎ノ高率ナルハ流行性感胃大流行ノ影響セルモノト思料セラル、而シテ乳兒死因ニ比較シテ著シキ増率ヲ示セルハ、急性法定傳染病ノ十八倍、結核性疾患ノ約六倍ニシテ、麻疹ノ約三倍、腦膜炎並腎臟炎ノ各二倍強等ナリトス、之ニ反シテ乳兒死因ヨリ減率ヲ示セルハ、營養不良ノ約六分ノ一、微毒ノ約四分ノ一、急性氣管支炎ノ約二分ノ一等ナリトス。

前期ノ調査成績ヲ後期ノ成績ト比較スルニ、前期ニ比シテ増率ヲ示セルハ、麻疹、百日咳、急性法定傳染病、腦膜炎、

總括

乳兒

一、死亡實數 ヨリ見タル五地域ノ割合ハ、東京市五・四六割、隣接五郡三・四七割ノ多數ニシテ、多摩三郡〇・九割、八王子市〇・一二割、島嶼〇・〇五割ナリトス。

1. 東京市 十五區中最モ多キハ本所區ニシテ、最モ少數ナルハ麴町區ナリ、地區別ニヨル死亡割合ハ、住宅地區〇・三八割、商業地區〇・五三割、混合地區一・〇一割、工業地區一・三六割ナリ。

2. 隣接五郡 ノ各郡ニ於ケル死亡割合ハ、北豐島郡三・二七割、南葛飾郡二・一八割、荏原郡二・一一割、豐多摩郡一・八一割、南足立郡〇・六四割ノ順位ニアリ。

3. 多摩三郡 ノ各郡ニ於ケル死亡割合ハ、北多摩郡四・〇四割、西多摩郡三・一九割、南多摩郡二・七七割ナリトス。

一、人口千ニ對スル乳兒死亡率ハ、東京府平均五・三〇ニシテ、八王子市(六・〇九)、多摩三郡、隣接五郡ノ三地域ハ府平均ヨリ高ク、東京市、島嶼(二・七四)ノ二地域ハ府平均ヨリ低率ナリトス。

1. 東京市 ニ於ケル乳兒死亡率ハ四・九六ニシテ、各區中最モ高率ナルハ本所區ノ六・六四、最モ低率ナルハ麴町區ノ二・七八ナリトス、地區別ニアリテハ商業地區四・〇四、住宅地區四・三四ニシテ市平均率ヨリ低ク、混合地區五・

脚氣、腎臟炎ノ六類ニシテ、就中急性法定傳染病ニアリテ著シキヲ見ル、之ニ反シテ率ノ減少セルハ、流行性感胃、加答兒性肺炎、急性氣管支炎、胃腸疾患、榮養不良ノ五類ニシテ、特ニ流行性感胃、加答兒性肺炎ノ二類ハ著シキ減率ヲ示セルモ、コハ當時ノ流行ニ左右セラレタル結果ト認メ得ベシ、而シテ結核性疾患、微毒ノ二類ニアリテハ、前期後期ヲ通ジテ殆ド同率ヲ示シ且ツ其順位亦同一ナルヲ見ルベシ。

病類	自大正八年二ヶ年平均 至大正九年		自大正十三年三ヶ年平均 至大正十五年	
	死亡數	對合計千分率	死亡數	對合計千分率
流行性感胃	七三	七・三	五三	五・三
腦膜炎	四八	四・八	三六	三・六
百日咳	三三	三・三	二二	二・二
急性法定傳染病	六七	六・七	四六	四・六
結核性疾患	六七	六・七	四六	四・六
急性氣管支炎	一三	一・三	一〇	一・〇
加答兒性肺炎	四〇	四・〇	三三	三・三
胃腸疾患合計	二五	二・五	二〇	二・〇
榮養不良	三〇	三・〇	二四	二・四
微毒	一〇	一・〇	八	〇・八
脚氣	四	〇・四	三	〇・三
腎臟炎	五	〇・五	四	〇・四

二二、工業地區六・六一ノ二區ハ市平均ヨリ高率ニアリ。

2. 隣接五郡 ノ乳兒死亡率ハ五・七九ニシテ、南葛飾郡七・二三、南足立郡六・八一、北豐島郡五・九九ノ三郡ハ五郡平均ヨリ高率ナリ、荏原郡五・六五、豐多摩郡四・三六ノ二郡ハ五郡平均率ヨリ低シ。

3. 多摩三郡 ノ乳兒死亡率ハ六・〇三ニシテ、北多摩郡六・一九、西多摩郡六・〇七ノ二郡ハ三郡平均率ヨリ高ク、南多摩郡五・七七ニシテ三郡平均ヨリ低率ヲ示セリ。

一、出生百ニ對スル乳兒死亡率ハ、東京府平均一七・三ナリ、地域別ニ見ルニ、八王子市二〇・六五、隣接五郡一九・五八ニシテ府平均ヨリ高率ヲ示シ、東京市一六・七〇、多摩三郡一四・六六、島嶼七・八四ノ三地域ハ府平均ヨリ低率ナルヲ見ル。

1. 東京市 ニ於ケル對出生乳兒死亡率ハ一六・七〇ニシテ、各區中最モ高率ナルハ本所區二三・一〇、最モ低率ナルハ芝區九・二〇ナリトス、地區別ニ見ルニ、住宅地區一四・四二、商業地區一五・〇一、混合地區一六・二〇ニシテ市平均率ヨリ低ク、工業地區二二・四八ニシテ市平均ヨリ高率ナリトス。

2. 隣接五郡 ノ對出生乳兒死亡率ハ一九・五八ナリ、コノ五郡平均率ヨリ高キハ、北豐島郡二二・〇一、南葛飾郡二一・八五ノ二郡ニシテ、南足立郡一八・八一、荏原郡一八・七四、豐多摩郡一五・五八ノ三郡ハ五郡平均ヨリ低率ナリ。

3. 多摩三郡 ニ於ケル對出生乳兒死亡率ハ一四・六六ニシテ、北多摩郡一四・八七、西多摩郡一四・七〇ノ二郡ハ三郡

平均率ヨリ高ク、南多摩郡一四・三ニシテ三郡平均率ヨリ低シ。

一、月齡別 ニヨル乳兒死亡ハ、生後「一ヶ月」以内ノ死亡三・六九割ノ多數ニシテ、月齡ノ増加ニ從ヒテ其割合ノ遞減スルヲ見ル、「一ヶ月」以内ノ死亡ヲ、更ニ日齡階級ニ見ルニ、生後五日以内ノ死亡ハ三・八二割ノ多數ニシテ、乳兒死亡ノ一・四一割ヲ示セリ。

一、季節別 ニ見タル乳兒ノ死亡割合ハ、冬季三・六六割、夏季二・三六割、春季二・二八割、秋季一・七〇割ノ順位ヲ示セリ、月別ニ見ルニ最高一月、最低十月ニシテ、其間ニ於テ七月ヲ頂點トスル一個ノ小隆起ヲ示セリ。

一、病類別 ニヨリテ見ルニ、畸形先天性弱質、乳兒ニ固有ノ疾患、胃腸疾患合計、加答兒性肺炎ハ何レモ高率ニシテ、三類合シテ六・三二割ノ多數ヲ算セリ、此等ニ次グハ急性氣管支炎、腦膜炎、脚氣、流行性感胃、榮養不良、百日咳、微毒、麻疹、腎臟炎、結核性疾患、急性法定傳染病等ノ順位ニアルヲ見ルベシ。

幼 兒

一、死亡實數 ヨリ見タル五地域ニ於ケル割合ハ、東京市五・五八割、隣接五郡三・三〇割、多摩三郡〇・九九割、八王子市〇・一〇割、島嶼〇・〇四割ヲ示セリ。

1. 東京市 十五區中ニテ死亡割合最高キハ本所區ニシテ、最モ低キハ赤坂區ナリ、地區別ニ見ルニ、住宅地區ハ〇・四四割、商業地區〇・五八割、混合地區〇・九七割、

工業地區一・一五割ナリトス。

2. 隣接五郡 ノ各郡ニ於ケル割合ハ、北豐島郡三・三〇割、豐多摩郡二・〇六割、荏原郡二・〇一割、南葛飾郡一・八八割、南足立郡〇・七五割ノ順位ニアリ。

3. 多摩三郡 ニ於ケル各郡ノ割合ハ、北多摩郡三・九八割、西多摩郡三・一一割、南多摩郡二・九二割ナリトス。

一、人口千ニ對スル乳兒死亡率ハ、東京府平均三・一三ナリ、地域別ニ見ルニ、多摩三郡、隣接五郡ハ共ニ府平均率ヨリ高ク、東京市、八王子市(二・八五)、島嶼(一・一六)ノ三地域ハ府平均ヨリ低率ヲ示セリ。

1. 東京市 ニ於ケル對人口乳兒死亡率ハ三・〇〇ニシテ、各區中最モ高率ナルハ深川區ノ三・三八、最モ低率ナルハ日本橋區ノ一・七六ナリトス、之ヲ地區別ニ見ルニ市平均率ヨリ低キハ、住宅地區ノ二・九五、商業地區二・六六ノ二地區ニシテ、混合地區三・〇一、工業地區三・三八ノ二地區ハ共ニ市平均ヨリ高率ナリトス。

2. 隣接五郡 ニ於ケル對人口乳兒死亡率ハ三・二五ナリ、各郡別ニ見ルニ、南足立郡四・五二、南葛飾郡三・五一、北豐島郡三・四〇ノ三郡ハ五郡平均率ヨリ高ク、荏原郡三・〇三、豐多摩郡二・七九ノ二郡ハ共ニ五郡平均ヨリ低率ヲ示セリ。

3. 多摩三郡 ノ對人口乳兒死亡率ハ三・九二ニシテ、北多摩郡三・九六、南多摩郡三・九四ノ二郡ハ三郡平均ヨリ高率ヲ示シ、西多摩郡ハ三・八五ニシテ三郡平均率ヨリ低キヲ見ルベシ。

一、年齡別 ニヨリテ乳兒死亡ヲ見ルニ、二歲階級ノ死亡ハ四・七一割ノ多數ニシテ、三歲階級ノ死亡ハ二・四三割、四歲階級死亡ハ一・七〇割、五歲階級ノ死亡ハ一・一七割ヲ示シ、年齡ノ進ムニ從ヒテ死亡ノ減少ヲ示セリ。

一、季節別 ニヨル乳兒死亡ノ割合ハ、夏季三・三六割、冬季三・一〇割、春季一・九六割、秋季一・五九割ノ順位ニシテ夏冬二季ノ差ハ甚ダ僅少ナリトス、之ヲ月別ニ見ルニ、高率ナルハ一月、八月、低率ナルハ四月、十一月ノ各二ヶ月ナリ、從ツテ一ヶ年ヲ通ジテ二個ノ高低アル曲線ヲ呈セルヲ見ル。

一、病類別 ヨリ見タル乳兒死亡ハ、加答兒性肺炎、胃腸疾患、腦膜炎ノ三類ヲ合シ五・六一割ノ多數ニシテ、乳兒死亡ノ過半数ヲ占ム、此等ニ次グハ急性法定傳染病、流行性感胃、結核性疾患、麻疹、急性氣管支炎、百日咳、腎臟炎、榮養不良、脚氣、微毒等ノ順位ニアリ、而シテ急性法定傳染病、結核性疾患ノ二類ハ乳兒ニ比シテ著シキ高率ヲ示セルハ特異ノ點ナリトス。

一、比較 前期ノ調査成績ニ比シテ、後期ノ調査成績ニ相違ヲ認ムルハ次ノ諸點ナリ。

1. 死亡割合 ハ前期ニアリテハ、東京市、隣接五郡ノ順位ニアリシモ、後期ニアリテハ其順位ヲ顛倒シ、隣接五郡ニ於ケル死亡割合最モ多ク、東京市之ニ次ゲリ。
2. 對人口 乳兒幼兒ノ死亡率ハ、島嶼ヲ除キタル四地域及各郡區共ニ前期ニ比シテ後期ハ率ノ減少セルヲ認ム。
3. 出生率 ハ概ネ前期ヨリ低下セリ、而シテ後期ニアリテ

4. 出生 乳兒死亡率モ亦前期ニ比シ、後期ニ於テ減少セルヲ認ム、而シテ東京市ニ於ケル日本橋、芝ノ二區及島嶼ニアリテハ後期ニ於テ率ノ増加ヲ示セルモ、其ノ數字ハ甚ダ僅少ナリ。
5. 年齡別 ニヨル乳兒幼兒ノ死亡ハ、後期ニアリテハ幼若ナル者ノ死亡多キモノノ如シ、乳兒ノ月齡階級別ニ於ケル死亡亦然ルヲ見ルベシ。
6. 季節別 竝病類別ニヨル前期後期ノ比較ハ前期ニ於ケル流行關係ノ影響アルヲ以テ、乳兒幼兒共ニ結論ニ到達シ難シ。

以上

人口並出生ト乳兒幼兒死亡 (自大正八年二月平均)

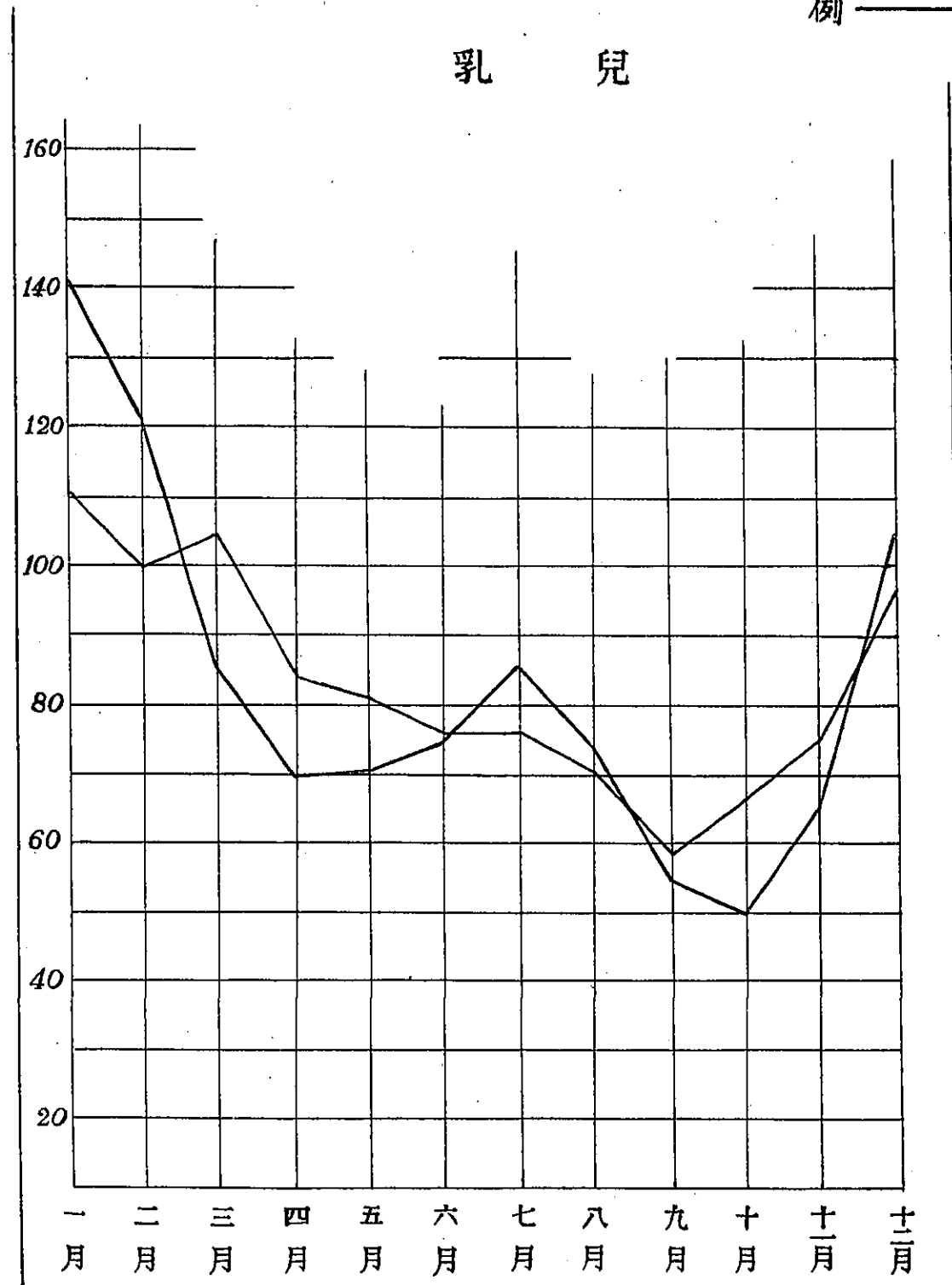
			人 口	出生數	乳 兒 死 亡 數	對人口千 出生率	對人口千 乳兒死亡率	對出生百 乳兒死亡率	幼 兒 死 亡 數	對人口千 幼兒死亡率
東 京 市	麹 町 區	58,649	1,286	169	21.93	2.78	12.67	154	2.63	
	神 田 區	142,108	3,474	662	24.43	4.66	19.06	465	3.27	
	日 本 橋 區	120,019	3,147	341	26.22	2.84	10.84	211	1.76	
	京 橋 區	135,282	4,078	609	30.14	4.46	14.79	383	2.83	
	芝 區	168,881	7,545	694	44.68	4.11	9.20	444	2.63	
	麻 布 區	89,694	2,908	382	34.75	4.56	13.14	241	2.88	
	赤 坂 區	57,141	1,430	177	25.03	3.10	12.38	123	2.15	
	四 谷 區	58,674	1,703	267	29.02	4.55	15.68	178	3.03	
	牛 込 區	118,861	3,775	451	31.76	3.79	11.95	314	2.64	
	小 石 川 區	140,043	3,961	721	28.28	5.15	18.20	457	3.26	
	本 郷 區	125,291	3,758	553	29.99	4.41	14.72	429	3.42	
	下 谷 區	176,008	5,156	1,007	29.29	5.72	19.53	532	3.02	
	淺 草 區	245,222	6,321	1,380	25.78	5.63	21.83	800	3.26	
	本 所 區	243,745	7,005	1,618	28.74	6.64	23.10	802	3.29	
深 川 區	172,095	5,228	1,132	30.38	6.58	21.65	602	3.50		
	小 計	2,045,797	60,775	10,151	29.71	4.96	16.70	6,135	3.00	
隣 接 五 郡	荏 原 郡	241,030	7,272	1,363	30.17	5.65	18.74	730	3.03	
	豐 多 摩 郡	267,928	7,497	1,168	27.98	4.36	15.58	747	2.79	
	北 豐 島 郡	351,659	9,573	2,107	27.22	5.99	22.01	1,197	3.40	
	南 足 立 郡	60,191	2,179	410	36.20	6.81	18.82	272	4.52	
	南 葛 飾 郡	194,073	6,427	1,404	33.12	7.23	21.85	682	3.51	
	小 計	1,114,881	32,948	6,452	29.55	5.79	19.58	3,628	3.25	
多 摩 三 郡	西 多 摩 郡	87,599	3,620	532	41.32	6.07	14.70	337	3.85	
	南 多 摩 郡	80,247	3,234	463	40.30	5.77	14.32	316	3.94	
	北 多 摩 郡	108,827	4,534	674	41.66	6.19	14.87	431	3.96	
		小 計	276,673	11,388	1,669	41.16	6.03	14.66	1,084	3.92
八 王 子 市	37,838	1,114	230	29.44	6.09	20.65	108	2.85		
島 嶼	33,523	1,173	92	34.99	2.74	7.84	39	1.16		
合 計	3,508,712	107,398	18,594	30.61	5.30	17.31	10,994	3.13		

乳兒幼兒死亡月別比較

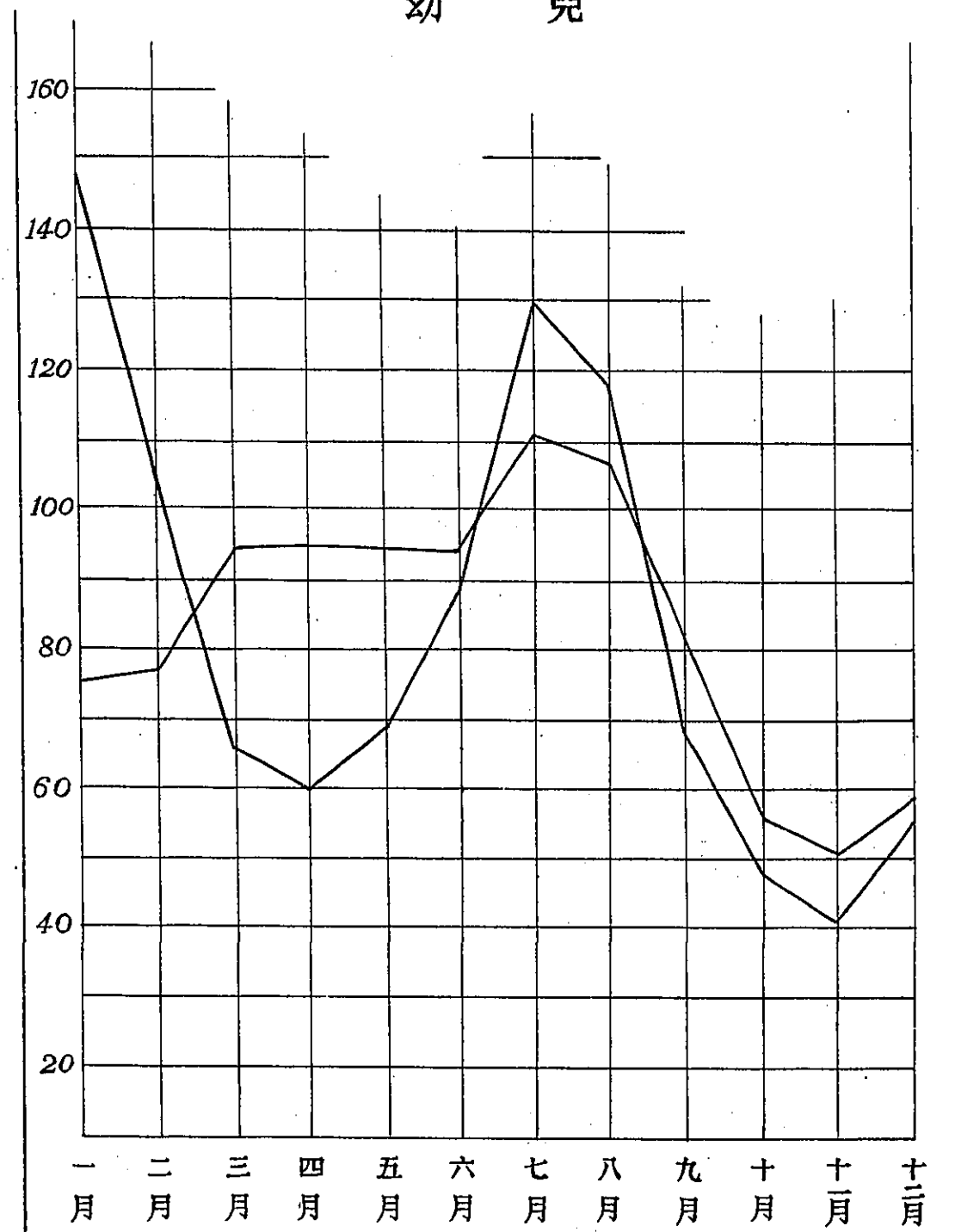
(千分比)

凡 —— 二ヶ年平均
例 —— 三ヶ年平均

乳 兒

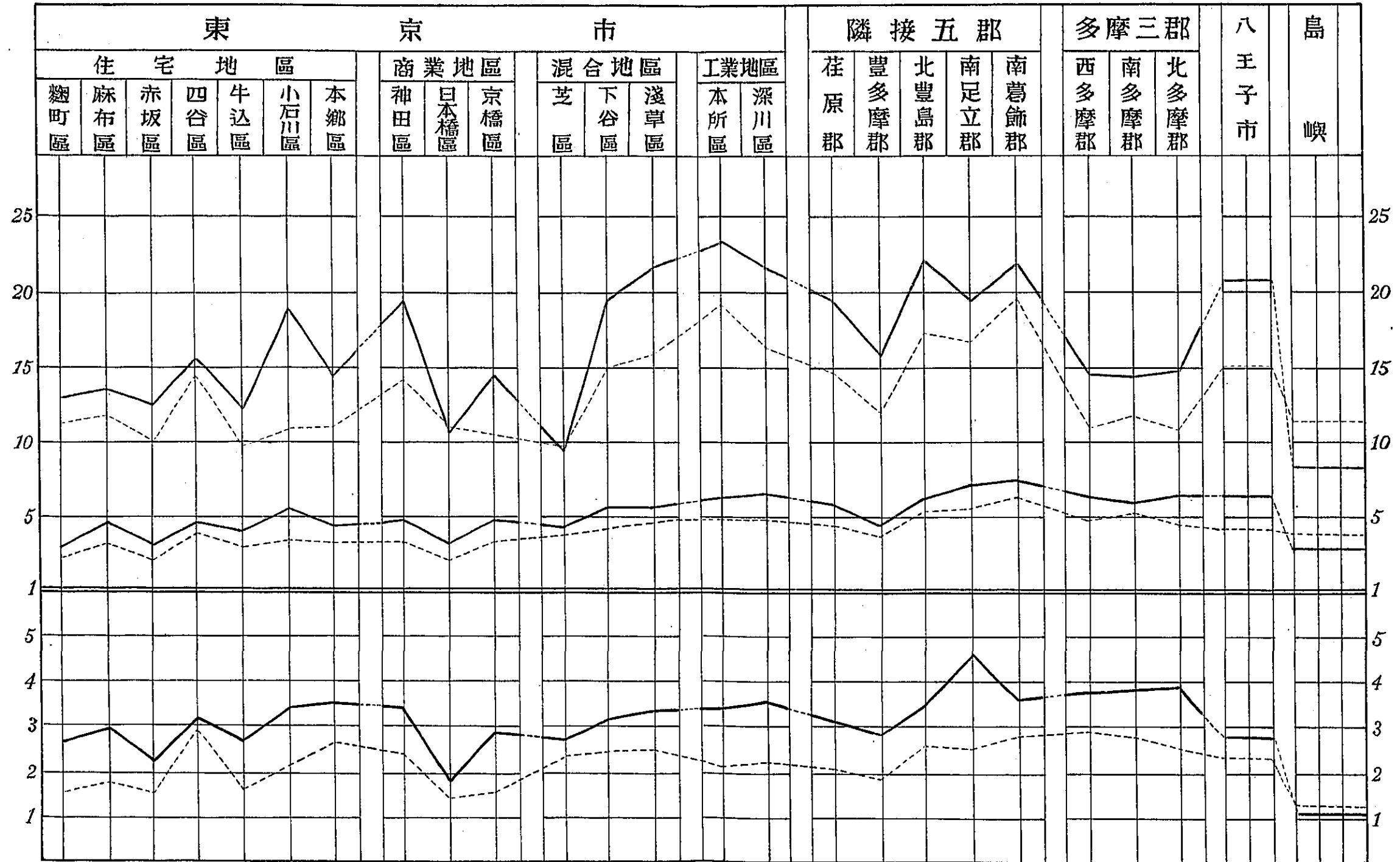


幼 兒



地區地域別乳兒幼兒死亡比較

—— 二ヶ年平均 } 對出生百
—— 二ヶ年平均 } 對人口千
—— 二ヶ年平均 } 對人口千
- - - 三ヶ年平均 } 乳兒死亡
- - - 三ヶ年平均 } 乳兒死亡
- - - 三ヶ年平均 } 幼兒死亡



昭和四年十月三日印刷
昭和四年十月八日發行

警視廳衛生部

東京市京橋區北槇町八番地

印刷者 山口義次郎

東京市京橋區北槇町八番地

印刷所 英社

電話京橋三九三番

